

64基のかがり火が八幡川を彩る

8月28日(土)、八幡川の中橋付近で「八幡川かがり火祭り」が開催されました。

上山八幡神社から運んできた御神火を、今年の新成人3人と有志1人が持つたいまつに移すと、川の中に設置された64基のかがり火にゆっくりと点灯していき、すべてのかがり火が灯されると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。幻想的な雰囲気が漂う会場では、迎え太鼓やヨサコイなどのアトラクションが行われたほか夜店もオープンし、家族連れなどの大勢のお客さんが、かがり火と夜のお祭りを楽しみました。



白いさしを巻いた勇敢な姿で火を灯す新成人ら

本物の落語を楽しむ ～林家正蔵落語会～

9月5日(日)、ベイサイドアリーナで、南三陸町合併5周年記念「しおかぜ寄席」が開催され、タレントとしても活躍している林家正蔵さんの落語を楽しみました。

この日は、林家正蔵さんのほかにも4人の方が出演し、本当は宝塚に入りたかったという林家しゅう平さんのミュージカル落語や大きなコマを白刃の上で回す芸などを披露した三増紋之助さんの見事な技に会場は大きく沸き上がりました。林家正蔵さんは、古典落語の「みそ豆」と創作落語の「読書の時間」を披露。会場では、涙を流して笑う人もいて、楽しいひとときを過ごしたようです。



開演前には、子どもたちを対象とした落語ワークショップが行われ、ソバを食べる仕草などを学びました

弘川ダム建設工事が新たなステージへ

9月7日(火)、歌津弘川地区で工事が進められている弘川ダムの定礎式が行われ、工事の安全と早期完成などを祈願しました。

町や県、工事関係者など、約100人が見守るなか、ダムの中央に「定礎」と彫られた幅50センチほどの礎石が据えられると、そのまわりには、伊里前小学校6年生23人が将来の夢や目標を書き込んだメモリアルストーンが敷き詰められました。その後、クレーンで運ばれてきたコンクリートが、号令とともに一斉に流されると、会場からは大きな拍手が沸き起こりました。弘川ダムは、平成25年3月の完成を目指し今後も工事が進められます。



メモリアルストーンを見つめる子どもたち

海が見える10万本のヒマワリ岬

8月29日(日)から9月15日(水)までの期間、歌津泊浜地区のヒマワリ岬で「第1回泊浜ヒマワリまつり」が開催されました。

ヒマワリ岬は、遊休農地の解消と観光地の景観保全を目的として、泊浜地区の住民を中心とした「泊浜花の道推進協議会」が町の「おらほのまちづくり支援事業補助金」を活用して、約1ヘクタールの遊休農地に10万本のヒマワリを作付けしたものです。

現地には、山並みと青い海を背景に咲き誇るヒマワリ畑を見渡せるようにと「やぐら」も設置され、初日から大勢のお客さんが満開のひまわりを楽しみました。



やぐらからの眺めは、素晴らしいものでした

伊里前川には何がある？

9月13日(月)、伊里前小学校全校児童による「伊里前川生き物調べ」が行われました。

この生き物調べは、地元の川に親しむことなどを目的に、総合的な学習と生活科の学習の一環として毎年行われているものです。縦割りの10班に分かれた子どもたちは、虫捕り網を片手に次々と川に入り、スズエビや小魚などを獲り、獲れた生き物の名前やその生き物がどんな水質の川に棲んでいるものなのかを調べていました。伊里前小学校4年生の高橋遥海さん(◎港)は、「いろんな生き物がたくさん獲れて、とても楽しいです。」と笑顔で話してくれました。



「でかいのとれたー!」「見せて見せてー!」と大きな声ではしゃいでいました

村井知事が活用センターを視察

9月14日(火)、知事自らが県内の企業や各種団体を訪れて県民の生の声を聞き、県政に反映させる「みやぎの現場訪問事業」で村井宮城県知事が自然環境活用センターを訪れました。

この日は、活用センターの「目玉」でもある電子顕微鏡の操作を体験したほか、南三陸町の海の生き物の生態や活用センターが行っている事業などについて視察を行いました。視察終了後、村井知事は、「これからの時代を担う若い人の研修の場として広く活用されており、とてもうれしく思います。これからも、有益な研究を進めてください。」と話しました。



30万倍まで拡大できる電子顕微鏡を操作する村井知事



セレモニー終了後は、自転車の試乗会が行われました

志津川駅と歌津駅に貸出用自転車が配置

南三陸町を訪れた観光客がゆっくりと町なか巡りを楽めるように、無料で自転車を貸し出す「レンタサイクル事業」がスタートし、8月29日(日)、JR志津川駅前でオープニングセレモニーが行われました。

この事業は、アサヒビール(株)からの助成を受けて南三陸町観光協会が行うもので、自転車は、志津川駅と歌津駅に5台ずつ配置されました。南三陸町観光協会副会長の千葉教行さんは、「自転車を活用することにより、車では体験することができない魅力を発見してほしいです。」と話しました。

道路美化を生きがいに32年

8月30日(月)、32年間という長きに渡り、道路の美化活動に寄与された佐藤正基さん(◎天王山)に、国土交通大臣から感謝状が授与されました。

この感謝状は、道路愛護活動に顕著な功績のあった個人や団体に対し、国土交通大臣が感謝状を贈り表彰するもので、県内からは2団体を受賞し、個人では佐藤さんが唯一の受賞となりました。佐藤さんは、「道路の清掃活動などは、自分の生きがいとしてやってきましたが、今回の表彰は、私一人の力ではなく、行政区の皆さんのおかげだと思います。これからも、体が健康なうちは、地道に活動を続けていきたいです。」と話しました。



冬の季節は、道路の除雪作業なども行ってきただそうです